

## 更なる充実発展を願って

会長 田中 貞一郎

昨年度は、新しい会則による初年度でしたが、各部会がそれぞれの分担に従って仕事を進め、又多くの方々の各面にわたるご協力を得て、まずまずの発足ができたのではないかと考えています。しかし、振り返ってみますと、多くの課題がありました。その一つは、名簿の整理です。会員の高齢化、就職先の多様化など、連絡するだけでも困難な場合があります。ここ2年位で完成したいと考えていますが、大部のものになるので、師範系と大学系の分冊にしたらという意見も伺っております。会員各位のお知恵を拝借したいと存じます。次に会報の配付の事です。本来なら本会事務局で一括処理すべきことですが現状ではとてもかないません。従って昨年同様、年次別・各学科等同窓会の役員の方々に格別のご協力を賜りたいと存じます。よろしくお願いいたします。

会員の親睦を図るとともに、会への親近感を少しでも高めてもらいたいと願っての会報発刊でした。勿論充分とはいかなかったと思いますが、各学科等同窓会で話題になったという話を側聞したり、又、私の所へも便りに書き添えてとか、電話のついでに触れてくださったりなど、まずまずだったなあと思ったことでした。

本会の大事業として続けて参りました教育実践研究論文募集事業も、12年目を迎えることになりました。昨年度は新人賞を設けるなど、要望にそって改善を図りましたが、今年度は更に表彰について工夫するなど、あるべき姿を求めて一層の努力をしていきたいと考えています。関係各位の更なるご協力をお願いいたします。

本年度、全学科に相当する大学院の専修が、学部長はじめ多くの方々のご尽力で、我が母校に設置されました。本当に喜ばしいことです。こうした機会に、本県の教育が一層充実発展することを願うものです。

終わりになりましたが、会員各位のますますのご健勝を祈念し、本会の更なる充実発展を願ってご挨拶といたします。

## 平成8年度 同窓会評議会

平成8年度岐阜大学教育学部同窓会評議会は、平成8年6月1日（土）午後1時30分より教育学部本館第一会議室で開催された。また、評議会に先立って、理事会が同日午前10時より同所で開催された。

■辻太副会長の開会の辞のあと、田中貞一郎会長が挨拶。

（要旨は本号巻頭「更なる充実発展を願って」参照）

■来賓の後藤忠彦教育学部長が挨拶。

（要旨は本号「教育学部の現状について」参照）



挨拶する田中会長と来賓の後藤学部長、各副会長

### 議題

#### (1)顧問の推挙

会則第9条にもとづく顧問として、以下の方々（敬称略）を提案。満場一致で承認した。

水野定之、田中太郎、野田義一、長沢弘、中西泉、安藤一郎、  
河井政治、御宿正司、和田吉弘、小島正文

#### (2)平成7年度事業報告

以下のように各部会から報告があり、質疑応答ののち承認した。

##### ①総務部会（報告：渡辺義行総務部会長）

運営委員会や総務部会等で検討してきた記念事業については、7年後の創立130周年（本号「教育学部の系譜」参照）をめざして今後検討していきたい。

②組織部会（報告：水谷重信副部長）

平成7年度は会員名簿の整理に力を入れた。報告いただいた師範系同窓会の方々のご協力に厚くお礼申し上げる。現在、収集された情報をもとに整理の段階に入っているが、なかなか捗らない作業となっている。

平成8年度は、7年度に引続き、未整理部分を埋めるよう作業を進める。

③事業部会（報告：宮川清司副部長）

平成7年度（第11回）教育実践研究助成事業を実施した。関係の方々のご協力に感謝申し上げます。応募者総数は1,497名（平成6年度1,412名）応募論文数1,443点であった。審査の結果、最優秀賞1、優秀賞9、優良賞40、新人賞20を選考した（本号「教育実践研究論文受賞者一覧」参照）。これらは論文集第11集として取りまとめ、県下各学校、教育事務所、県教育委員会等に配付した。

④広報部会（報告：村瀬康一郎部長）

会報第1号を発行した。第1号はB5版20頁で16,000部印刷した。配付については、多くの方々にご迷惑をおかけしたことお詫び申し上げます。

(3)平成7年度決算報告

岩田恵司総務部会副部長（会計担当）から資料に基づいて報告。岩崎潔監査委員から会計処理その他適正である旨の監査報告があり、承認した。

(4)平成8年度事業計画

以下のように各部会から提案があり、審議のうえ承認した。

①総務部会（提案：渡辺義行総務部会長）

新入生の同窓会費納入について、完納を目指し努力していきたい。新しい事業として、大学の教科教育担当の教官の協力・指導を得ながら、教育実践研究論文を新しい方式で公に発刊していくことを検討する。諸先生方のご協力をお願いしたい。

②組織部会（提案：水谷重信副部長）

未整理の名簿整理作業を引続き進めたい。整理方法と構成については、広範囲に検討していくつもりであり、皆さんのご意見をいただきたい。

③事業部会（提案：宮川清司副部長）

平成8年度（第12回）教育実践研究助成事業は、従来の入賞者に対する褒賞金を廃し、記念品としたい。その理由は、財政面と、研究実践は褒賞金を目指して取り組むものではないという原点に戻り、むしろ実践論文集の充実を図りたいためである。予算規模は縮小したが、全体的には従来とおり実施する予定である。

④広報部会（提案：村瀬康一郎部会長）

平成8年度は、会報第2号を発行したい。部数は第1号と同じ16,000部。大きさはB5版では郵送しにくいという意見がありA5版に変更し、8月中には印刷完了したい。

(5)平成8年度予算

岩田恵司総務部会副部会長（会計担当）から、資料に基づいて以下のような提案があり、審議のうえ承認した。

平成9年度から教育学部の学生定員が70名減になることにより、本年度の予算もそれを踏まえた編成にする必要がある。本年度予算案の特色をあげると、まず組織活動費の増額で、その目的は名簿作成助成と会報送付を含む通信費補助である。新設された予算項目は、教育実習援助費で、教員養成の一層きめ細かい指導体制の支援を行うものである。教育実践助成費では、褒賞金にあたる額の減と、論文集印刷費の増額である。

その他

教育学部卒業生の進路状況について、渡辺義行総務部会長より報告があった。即ち、平成7年度の卒業生は325名、教職関係に就職した者は県内153名、県外10名。合計163名で卒業生の約50%にあたる。

官公庁が32名、一般企業会社関係66名、大学院へは28名、女子に多い家事従事28名となっており、教職以外に進む者が多くなっている。従って、同窓会の活動もいろいろ考える必要がある。（本号「卒業生の進路」参照）

大学院には1年生44名、2年生33名の合計77名が在籍。教員養成の将来構想にもとづき、1学年100名を目指したい。

■宮川三男副会長の閉会の辞。午後3時5分閉会。



評議会での審議のようす

## 平成7年度教育実践研究助成事業のまとめ

平成7年度の教育実践研究助成事業の論文募集に対し、応募いただいた教職員の数は、1497名（論文1443点）に及びました。これは県下の教職員のおよそ8名に1名の割合となり、総数において前年度に対し微増傾向にあります。

応募者の内訳は、教諭1425名、養護教諭44名、管理職23名、事務職員2名、栄養職員5名でした。世代別では20代628名(42%)、30代622名(42%)、40代215名(14%)、50代30名(2%)でした。性別では、女性が679名(45%)でした。

内容の面からは、全教科・全領域にまたがっており、新しい学力観に基づく実践研究が多数みられました。

1400点を越える多数の応募論文は、市町村・郡市及び教育事務所段階で厳選され、50点が最終審査の対象となりました。その中で、藤橋中学校の古田靖志教諭の論文が高い評価を得て、最優秀賞の栄誉に輝きました。全応募論文の頂点だけあって、ひとりひとりの生徒のとらえかた、みつめかた、そして育てかたが説得力をもって論述されています。優秀賞には9点が選ばれました。いずれも優れた内容でした。優良賞は40点です。今後のさらなる実践研究の進展を期待しています。また、平成7年度から前途有為の若い先生方への激励の意味を込めて「新人賞」を設け、20点の論文が選ばれました。これを機会にますますの研鑽を期待しています。

これらの受賞論文は、「教育実践研究論文集（第11集）」として取りまとめ、県内全ての小中学校、県及び市町村教育委員会並びに教育関係機関にすでに配付いたしました。

こうした状況をみるにつけ「教育学部同窓会として、岐阜県の教育振興のために貢献できる事業を展開したい」との先人の熱い思いが、十年余の間に次第に熟成され、教育現場に浸透し、みごとに開花しつつあるように思われます。県教育センターや大学の先生方からこれら入賞論文に対して高い評価を頂いていることも、その証といえます。

しかしながら、この事業の円滑で効果的な運営と実施には、財政事情を含む幾つかの課題があります。同窓会の運営全体の枠組みの中で、より良いあり方を求め、時代の変化にも即応しつつも、先人の「心」を大切にしていかに継承していきたいと願っております。

本年度も若干手直した要項により、この事業の実施を、県内全ての小中学校に勤務する教職員に対してお知らせしたところです。前年度以上に、より質の高い実践研究論文の応募が多数あることを切に期待しております。

## 教育学部の現状について

岐阜大学教育学部長 後藤 忠彦

同窓会の方々には、教育学部の発展のために大変なご支援をいただき、ありがとうございます。皆様方のご協力を得て、平成8年度に大学院教育学研究科の全専修及び生涯教育講座の設置が認められました。厚く御礼申し上げます。

### 大学院教育学研究科の完成

大学院は、同窓会の皆様方のご支援や教育学部教官の大変な努力により2年間で完成することができました。本年申請した大学の中には、完成までに12年間を要した大学もあります。2年間という短期間で完成したため、金城俊夫学長が文部省でお褒めの言葉をいただいたとの話を聞き、各方面のご協力・支援いただいた方々の恩に報いるためにも、大学院教育学研究科における教育研究の充実発展を進めたいと努力しています。

学校教育：学校教育（教育・心理・治療）

教科教育：国語教育・社会科教育・数学教育・理科教育・音楽教育  
美術教育・保健体育・家政教育・英語教育

このように大学院が全専修で整備され、本年から一年次・二年次合わせて約80名の大学院生が研究を進めています。その中には、約20名の岐阜県の小学校・中学校・高等学校の先生方が現職教員として派遣され、大変熱心に研究をされています。今後さらに、定員増をはじめ大学院の充実を進めたいと努力しています。今後ともご支援下さるようお願いします。

### 専修免許取得できる公開講座

ところで、小、中、高等学校の教員免許として専修免許が設けられ、多くの先生方から専修免許取得の要望がありますが、全ての教員の方々に大学院に来ていただくことは困難であります。ところが、最近の新聞で「教員養成の6年制」諮問へ（平成8年6月23日）との見出しで取り上げられましたように、修士を含めて6年間への延長について教育職員養成審議会で検討がはじめられようとしています。岐阜県教育委員会や同窓会の皆様方にご協力をいただいて完成した大学院ですので、卒業生を含め多くの先生方に対して、教育研究や専修免許取得を支援していかなければ申し訳ないと思っています。このため、平成7年10月から12月の第2・第4の土曜・日曜に公開講座を開設し、3単位の履修を可能にいたしましたところ、大変多くの教員の方々が受講されました。平

成8年度も同様に10月～12月に開講できるように、文部省に申請しています。一定の教員経験があれば、6単位を取れば専修免許が取得可能ですので、多くの同窓会員で教員をされている方々の公開講座受講をお願いします。

### 生涯教育講座の設置

生涯教育講座が平成8年10月に設置され、平成9年4月から学生の受入れがはじまります。この講座の設置は、教育学部に新しい方向づけをするものと多くの期待がされています。

その講座の内容は、生涯心理、生涯教育計画、学習情報、生涯教育内容の各分野で構成されます。そこでは、

教員免許 と 認定心理士、社会教育主事、司書教諭、スポーツ指導員、  
学芸員及びその他情報処理関係の受験資格

など、広く生涯学習の指導に役立つ資格が希望に応じて取れるようになっていきます。

とくに司書教諭は、今後全学校の図書館に置くような検討もされています。そこで、教育学部の全学生にも関連講義が受けられ、司書教諭の取得もできるようにカリキュラムの計画も進めています。

この講座は、学校教育、各教科教育と同様に、小学校、中学校教員養成課程の中に位置づけられ、教員養成の中に生涯教育関連の各種資格が取得可能です。他にあまり例がなく、新しい講座の設置方法として他の大学からも注目されています。

最近では、学校の多くの先生方が、博物館、公民館、少年自然の家、図書館、スポーツ関連施設、生涯学習関連施設等で活躍されています。このような生涯学習関連施設で活躍される方々は、今後さらに多くなると考えられます。この生涯教育講座が、これらの各施設等が必要とする人材の養成にも役立てたいと願っています。

また、この講座は、教育の課題として、いじめ・不登校をはじめ様々な問題に対しても教育研究を進めるように計画しています。

ぜひ、教員免許と併せ、生涯学習関係の資格を取り、広く教育界で活躍を希望する高校生を送っていただけるよう、御協力方よろしくをお願いします。

現在大学は、大きな変革期となっています。岐阜大学教育学部としては、教養部の改組に伴う変革、大学院教育学研究科の設置、生涯教育講座の設置と大きく変わってきましたが、よりよい学部とするため、さらなる学部の将来計画を立て、その実現に努力しなければなりません。その実現のため、今後とも同窓会のご支援をよろしくをお願いします。

## 教育学部卒業生の進路

総務部会長 渡邊 義行

岐阜大学教育学部は明治6年師範研修学校創設以来123年、岐阜県下の教育を担い、今日に至っている。教育学部の卒業生のほとんどが教職につき、安定した就職率を堅持し、ごく最近まで日本で3本の指に入る優等教育学部であった。これは中京圏の外域に位置するという好条件が人口の増大を引き受けてきたという幸運事もあったであろうが、さらに岐阜師範学校卒業生諸氏のご鞭撻に因るところが多であったと考えている。

時節は出生率1.5人を割り、児童・生徒数の減少、学級数の減少、他大学からの岐阜県教員採用試験受験者の増大など、本学教育学部を取り巻く就職情勢は一段と厳しくなってきた今日である。図1は最近4か年の本学教員受験者に対する岐阜県の教員合格率(%)を示したものである。平成4年度までは70%台の合格率を維持していたが、平成5・6年は60%台に低下し、平成7年度に至っては約半数の52%まで落ち込んでいる。この傾向はしばらく続くことが予測されることから「鍋底状態」といえる。いつになったら「鍋底」から抜け出ることができるであろうか。1つの朗報として、あと6年程したら定年退職者が増大することが予測できるということだ。いずれにしても厳冬の過ぎ去るのを頭を低くして待つしかないようである。

この間ただじっとしているだけでは能がない。今を教育学部の充電期と考え、よりよい人材を世に送り出すべく教育の質の向上に心掛けるべきであろう。平成9年度からは入学定員が減少することによるより高い資質を有する人材を求め一方、大学院教育の充実、飛び級の実施等による教員養成教育の活性化が計られる時であろう。

図2は平成7年度の卒業生の就職先を示したものである。教職についた者は38%と少ない。臨時採用者11%と合わせると約50%の者が教育現場に携わっている。現況ではなんとか頑張っていると評価できるであろう。一般会社20%はやや多いと言えるかも知れない。筆者が平成4年度に4年生を対象に「進路についてアンケート調査」したところ、「教員志望と決めて入学した者」1/3、「教員にはならないと決めていながら教育学部に入学した者」1/3、「どちらとも決めずに何となく教育学部に入学した者」1/3であった。このような現代の世情を反映した若者の状況を斟酌すると、一般会社就職20%はそれ程多くな



い数字ともいえよう。

今後の教育学部同窓会の活動として、こういった教職以外に就職している卒業生をも視野に入れた魅力ある同窓会活動をしていかねばならないと考えられる。

昨日、平成8年度の岐阜県教員採用試験が終わった。今年度はどんな結果となるのだろうか。

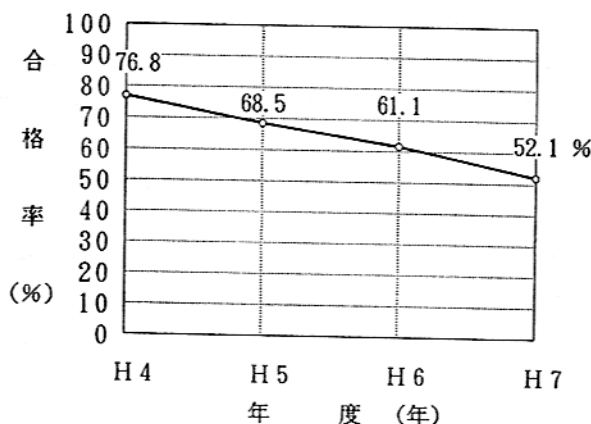


図1 本学学生の岐阜県教員採用試験年度別合格率

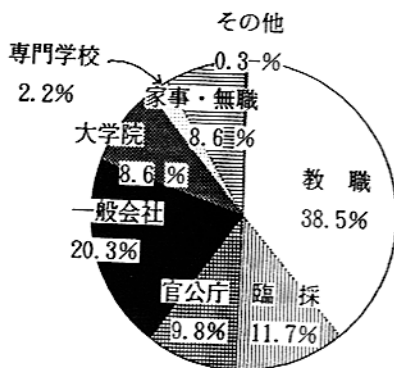


図2 卒業生の就職先

## 母校の発展に思う — 123年の歩みを整理して —

このたび、私たちの同窓会が、内外の変化に対応して新しく規約を整備し、組織を整え再発足をしたことをご承知のことと思います。これを契機として、会員の皆様に母校の歴史をあらためて正しく認識していただくため、その資料を作成することにしました。

この資料づくりは、乏しいデータから正確さが求められる困難な仕事です。しかし、誰かが、いつか、しかも早急にやらねばならない仕事であるという認識が同窓会運営委員の間にありました。たまたまその一員であり、母校の歴史に関心を寄せていたというようなことから、大役をお引受けした次第です。

いまひとつ、私の気持ちを駆り立てましたのは、私自身が「母校」と格別深いかわりを持っていることです。私的なことで恐縮ですが、私は、戦中戦後を通じ、師範学校生として、また岐阜大学の学生として2度にわたり在籍し、卒業をしたという異例の経歴の持ち主です。そうしたことから、かねてから「母校」に対する愛着が人一倍強いと自負しておりましたので、喜んでこの仕事を引き受けた次第です。

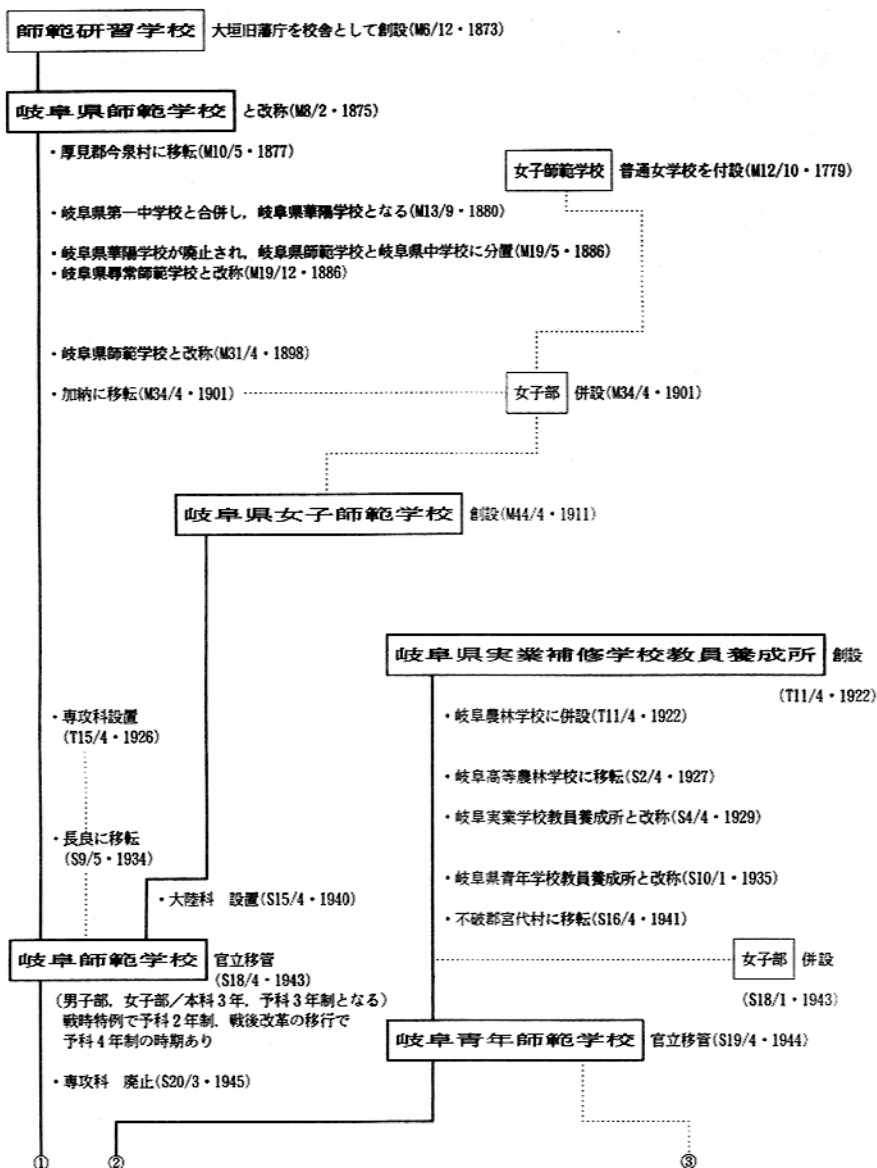
顧みますと、明治5年、学制発布の大号令を受けて、翌明治6年12月、「師範研習学校」が大垣の旧藩庁に設立されました。以来、今日に至るまで既に百有余年が経過しております。その間、「系譜」をご覧になっておわかりのように、岐阜県の教員養成を使命とした母校は、時代の要請に従い幾多の統廃合や内部の改組を繰り返して来ております。また、学校の所在地も県内各地を転々としてきました。特に昭和10年代の後半から、敗戦後の大学昇格前後の母校はまさに激変の時代にありました。

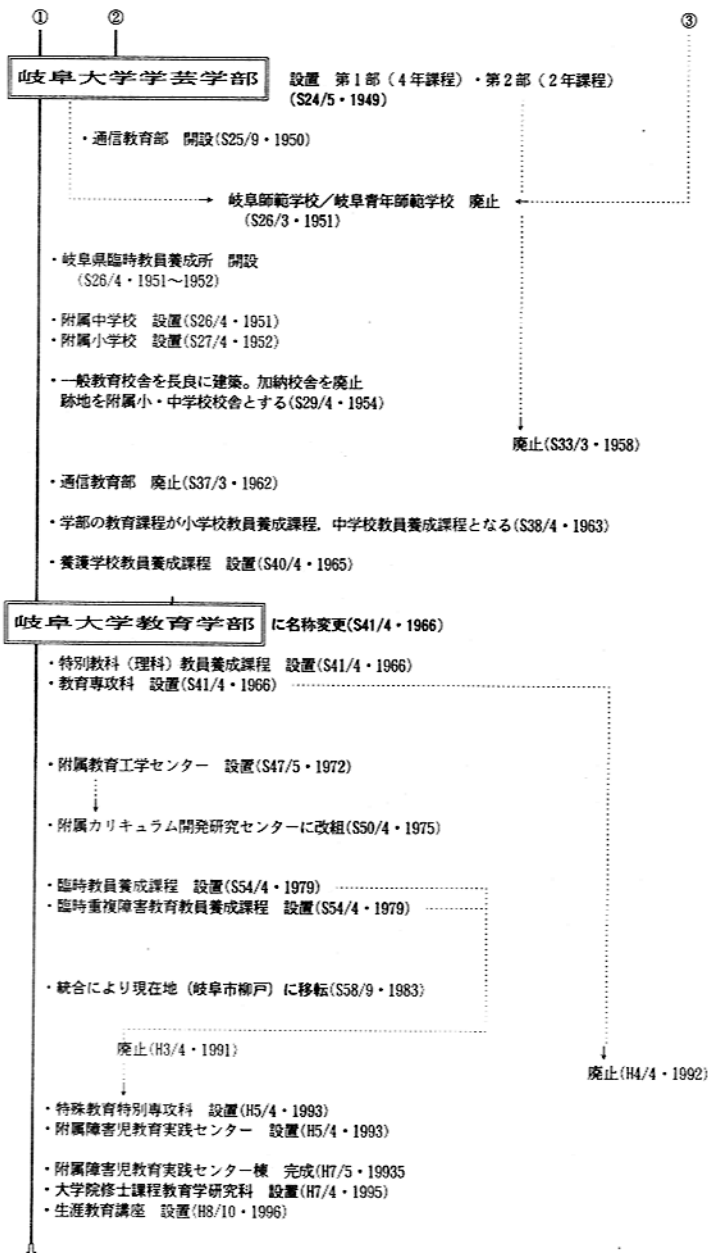
師範学校、青年師範学校が県立から官立に移管されたこと、大陸科の設置、戦時特例で繰り上げ卒業があったこと、通常予科は3年間の在学が必要にも拘らず、2年間に短縮されたこと、そのために異年齢で同学年を構成したり、同年齢で異学年を構成したりした時代もありました。また、戦後の学制改革に伴い、同級生でありながら幾つかの進路の選択を余儀なくさせられたりしました。10年も満たない短期間に激しく、大きなうねりが押し寄せたのです。戦時体制の強化、学徒動員、そして敗戦、混乱、飢餓、平和憲法、民主教育、六三三制の発足、師範学校の大学昇格・・・。「母校」は日本の歩みとともにその運命を共にしてきたと言えましょう。

（16頁へつづく）

# 岐阜大学教育学部の系譜

平成8年2月15日調べ





(13頁より)

その渦中にあった当時者は、既に現職を退いております。また、かなりの方が他界されています。改変の実態や経緯を正しく説明出来る者は次第に限られてきているように思われます。

そうした母校の複雑な動きや流れを時系列でまとめ、一目にしてその歴史がとらえられるようにまとめたものが、別掲の「岐阜大学教育学部の系譜」です。戦後、母校が大学に昇格し、学芸学部の発足をもってページを区切って2ページだてにしました。

また、重要と思われる事項には囲みを入れたり、ゴチにして強調したり、線の太さや結び付けなどに工夫したつもりです。より分かり易く、読み取り易くしたいという編者の願いからの独断によります。残念なことに、限られた紙面や編集の都合で、「時」を等しい間隔にして表現することが出来なかったことです。ともにお許しを願いたいことです。

何よりも正確さを念頭において、下記の資料を参考にして作業をすすめました。幸い母校の教官でもあり同窓会員でもある渡邊義行総務部会長を通して、大学当局の事務局内に保管されている原資料にあたり、校正をお願いしましたので、事実関係はまず間違いないものと思っています。しかし、この系譜には、主として制度面の推移の記載にとどめ、戦時下の学校生活、軍人への応召の動向、散華した方々、学徒動員の状況をはじめ、同窓会の歩みや動き、各種記念事業、先人の歩みや業績をあえて取り上げませんでした。役割を越えたことであり、到底その任に耐えられないことと思ったからです。この系譜を基に、今後有志により肉付けをして、母校の歴史が集大成されることを期待しています。

この系譜が、ご家族や友人、知人に自らの人生を語る契機となり、また先人の足跡を偲び、これからの母校の発展に思いをはせることに少しでも役立つことになれば、このうえなく幸せに思います。

(社会学科昭和27年度卒業生 M)

## 参考資料

- ・岐阜県の師範学校—その歩みと岐阜大学教育学部：作道好男（昭和60年6月）
- ・岐阜県教育の回顧と展望：岐阜大学教育学部教育百年実行委員会（昭和48年1月）
- ・統合移転記念誌：岐阜大学教育学部同窓会（昭和58年10月）
- ・会員名簿：岐阜大学教育学部同窓会（昭和48年1月）
- ・会員名簿：岐阜大学教育学部同窓会（昭和52年11月）

## 各学科等同窓会トピックス

ぬくもりの中によみがえる思い出

宮川三男教授

御退官記念の会を終えて

音楽学科同窓会長 丸山 春雄

長年教育学部音楽学科でご指導くださり、この3月末に定年退官された宮川三男教授への感謝をこめて、音楽科同窓会では、平成8年5月6日（振替休日）岐阜市文化センター小劇場で、「宮川三男教授御退官記念の会」（実行委員長三羽幸夫理事長）を開催いたしました。当日は県内外各地から会員350名が会場に集まり、宮川先生へのお祝いと感謝と慕情が会場を包みました。



熱い拍手に応じてアンコール演奏される宮川三男名誉教授

会は宮川教授の「トーク&ピアノ独奏」を中心に構成されましたが、ごあいさつの途中に宮川先生が感激のあまり、涙されたお姿が皆の心をゆさぶりました。そして宮川教授の繊細なピアノ演奏は350人の心に深くしみてゆきました。演奏された曲の中で、宮川三男著「ピアノとのであい〜52のあたらしい小曲集〜」からNo.3「やさしい声」他18曲は特に印象的で話題をひろげました。

同窓会員の謝意をこめて、ニュータイプのラジカセを記念品としてお贈りし、午後4時15分、参会者全員により「音楽学科同窓会歌“母なる長良川”」を混声四部で大合唱して感動のうちに会は終わりました。

この会の企画の実施にあたって、全会員802名の総意の証として往復はがきにより“宮川先生へのメッセージ”を募集しましたところ、約530人から返信がありました。これを一冊に装丁し、プログラムに添えて先生にお届けしましたところ、宮川先生は「一生の宝もの」と、とても喜んでくださいました。

#### メッセージ集から

初めてレッスンしていただいたショパンのノクターン11番のことが懐かしく思い出されます。およそショパンとは程遠いカチンコチンの私の演奏に対してまず、「恋人に優しく髪を触られたような感じで」とおっしゃり、箱入り娘の私は未経験で、とても困りました。

横浜市 桂川(宮崎)信子 S49年卒

「・・・で、あなたは、ここをどう弾きたいの。どんなふうに弾こうと思っているの。」セピア色に染まる遠い昔、最初のレッスンで先生にいわれた言葉です。音楽を作る楽しさとむずかしさを教えていただきました。

一宮市 水野(河合)伸子 S57年卒

この会の取り組みを通して、音楽学科同窓会役員を中心に全会員の連帯感が一段と高まったように思われ、これもまた私達にはとても嬉しいことでした。

宮川三男先生は、ご退官にあたり、岐阜大学から名誉教授の称号を授与されました。重ねてお慶び申し上げるとともに、宮川先生の一層のご活躍、ご多幸を祈念して止みません。

## 各科同窓会の活動から

このコーナーでは毎号、各科同窓会の総会や様々な活動のようす、これからの予定などについて、お知らせしていきます。簡単な紹介文でけっこうですので(写真などもあれば一緒に)事務局までお送りいただければ、次号に掲載していきますので、よろしく願いたします。

(1)総会開催日 (2)総会開催周期 (3)会員名簿 (4)会誌・会報 (5)会員数 (6)その他の活動、等

### ■地理学科 (事務局 委員長在動地)

(1)総会開催日：平成7年8月6日 会場：岐山会館 参加人数38名  
講演：「旧東ドイツの都市のゆくえ」岐阜大学教授 小林浩二先生



(2)総会開催周期：毎年8月(平成8年度：8月4日(日))  
(4)会誌会報：研究誌『濃飛』第28号(平成8年2月発行)

### ■数学科 (事務局 岐阜大学教育学部附属中学校)

(1)総会開催日：平成8年5月11日(土) 会場：教育学部本館7階 第一会議室  
記念講演：「本県の教育における課題について」  
岐阜県教育委員会学校指導課 課長補佐 中村昌秀先生  
実践研究発表：大野町立大野中学校 廣瀬智明先生(36期)

(2)総会開催周期：毎年 (3)会員名簿：平成8年5月発行(毎年)  
(5)会員数 1部1136名、2部78名、計1214名  
(6)その他の活動：

#### ☆夏季研究会の開催

- 毎年各地域をまわり、その地域の先生方との交流を深めながら夏季研究会を開催している。
- ・夏季研究会：平成8年8月24日(日) 会場：吉城郡河合村 YuMeハウス
  - ・実践研究発表：武儀町立下之保小学校 田内和子先生(22期)、桜井かおり先生(36期)  
美濃加茂市立古井小学校 明星裕先生(42期)  
古川町立古川中学校 南波一義先生(36期)

### ■化学科 (事務局 岐阜大学教育学部化学教室)

(1)総会開催周期：2年毎(平成9年8月予定) (3)会員名簿：定期総会時発行  
(4)会誌会報：『かんきせん』第9号(平成9年8月発行予定)  
(6)その他の活動：☆岐阜大学かがく教育研究会

岐阜大学かがく教育研究会は、岐阜大学化学科同窓会会員の温かい仲間意識を基盤として、



昭和55年に小学校から大学までの教員仲間が集まって活動を開始した教育研究会です。

当研究会では、毎年1回「研究実践交流会」を開催し、研究成果や日常の教育実践の歩みを気楽に交流し合っています。会員は、ここで得られた成果を、日常の授業で生かしたり論文にまとめたりしています。昨年1月には、これまでの研究論文等を整理し、研究会創立15周年の節目として「15周年記念研究報告集」(700頁余)を刊行しました。また、研究報告集「かがく教育研究」も毎年発行しています。この研究報告集は希望の方にお分けしています。

・第5回研究実践交流会の開催

期日：平成7年11月11日(土) 会場：附属中学校 参加者：67名

・第6回研究実践交流会の開催

期日：平成8年11月9日(土) 予定 会場：附属中学校

・研究紀要「かがく教育研究」VOL.4(平成8年12月発行予定)

■生物学科 (事務局 岐阜大学附属中学校)

(2)総会開催周期：2年毎 (3)会員名簿：総会開催時発行

(4)会誌会報：「岐阜の生物」2年毎・総会のない年(平成8年発行)

(5)会員数：493名(平成6年度卒まで)

■音楽学科 (事務局 岐阜市花ノ木町2-23-2 三羽幸夫理事長宅)

(2)総会開催周期：満3年に1回 (3)会員名簿：平成7年11月12日発行

(4)同窓会報：「間」(年1回発行：第26号 平成8年9月1日発行予定)

(5)会員数：802名(生存会員数) (6)その他の活動：(各学科等同窓会トピックス参照)

■体育学科 (事務局 岐阜大学教育学部体育学科)

(1)総会開催日：平成8年6月8日 会場：石金 参加者数：120名

(2)総会開催周期：毎年 (3)会員名簿：平成8年6月第3回改訂発行(リベリヤ年に改訂発行)

(5)会員数：1001名

(6)その他の活動：事業実行委員会を発足させ、平成10年に体育学科50周年事業を企画中。

■英語・英文学科(ランタン会) (事務局 岐阜大学教育学部附属中学校)

(1)総会開催日：平成7年1月22日 会場：ホテル「せいらん」

講演：“JAPAN as I See” 東海女子短期大学講師 カーク・ウイルトシャー先生

(2)総会開催周期：次回平成9年開催 (3)会員名簿：平成7年1月22日発行

(6)その他の活動：平成6年10月11日 役員会(伊奈波中学校)

平成7年 1月21日 ランタン会総会打合せ会

■教育学科 (事務局 岐阜大学教育学部学校教育課)

(3)会員名簿：平成8年度「教育学科同窓会名簿」刊行予定。

教育学科同窓会(障害児教育・学校教育)は3～4年毎に同窓会名簿を発行します。

新たに加わられた同窓生名も記載し、平成8年8月に発刊します。

(6)その他の活動：☆中井幹教授最終講義・退官記念祝賀会

教育学部に障害児教育の研究室が発足して以来、医学的な立場から教育の分野へ数々のご研究と教員養成。さらに岐阜県の障害児教育の発展に貢献されました中井幹教授が、平成8年3月をもって、岐阜大学を退官されました。

生涯教育研究室の同窓生を中心に最終講義を聴講し、盛大な記念祝賀会を行いました。

・開催日：平成8年3月16日(土)

・最終講義「いじめの構造」 障害児教育実践センターにて

・記念祝賀会 同窓生等1000余名参加 岐阜クラウンホテルにて

## 編集後記

◆新しい会則のもと、同窓会の活動は2年目に入り、各部会とも精力的に活動を行っています。広報部会も6月の理事会・評議会の後、第2号の編集にとりかかりましたが、8月の発行になってしまいました。各学科同窓会の中には、会誌会報等の送付を一緒に行うために、本号の完成をお待ちになっていたところもあり、遅くなったことお詫びいたします。

◆第2号には、同窓会が行っている事業や、私たちの母校の系譜を資料として掲載しました。同窓会へのご理解や、母校の歴史に対して思いをはせていただければ幸いです。

◆同窓会トピックスにあるように、同窓会員であり母校の恩師でもある音楽教育・宮川三男先生がご退官になりました。これまでのご指導に感謝申し上げますとともに、これからのご指導もよろしく願いいたします。退官された先生には顧問になっていただくのが本来ですが、現在、宮川先生は本会副会長をおつとめいただいております。これからも同窓会役員の現役として、運営委員会や広報部会へのご指導を切にお願いするところです。

◆会報に掲載する記事を募集いたします。各科同窓会での小さな集まりのことで結構です。写真などと一緒にお知らせください。よろしく願います。同窓会事務局の所在地は、下の囲みのとおりです。また、会員の動静についてもお知らせいただければと思います。

◆まだ会員一人一人の方へ会報をお届けするてだてがありません。今回も会報配付を各学科等同窓会へお願いすることにいたしました。ご迷惑をおかけしますが、よろしく願います。

岐阜大学教育学部同窓会報 第2号 平成8年8月 発行

発行者 田中 貞一郎

発行所 岐阜大学教育学部同窓会

〒501-111 岐阜県岐阜市柳戸1-1 岐阜大学教育学部内

☎058-230-1111内線6748